資料１

第１２回 文部科学省IB教育推進コンソーシアム関係者協議会

【作成：2023年3月23日】

コンソーシアム事務局活動総括（2018年度～2022年度）

国内における国際バカロレア推進

国際バカロレア認定校等を２００校以上（目標：２０２２年度）

＊成長戦略２０２１（令和３年６月閣議決定）

＊２０２２年１２月３１日時点　１９１校（残り９校）

※認定校・候補校の内訳
PYP：認定校５９校 候補校２１校
MYP：認定校３４校 候補校８校
DP　：認定校６６校 候補校３校

＜ＩＢ導入の４つの意義＞

①変化する社会に対応するグローバル人材の育成

＊課題発見・解決能力、 論理的思考力、コミュニケーション能力の育成など

②国際的通用性

＊高校卒業から海外大学にも直接入学する選択肢の拡大

③初等中等教育の質の向上

＊全人教育を通じた主体的学びを重視し、初等中等教育の好事例を形成

④国内外の優秀な人材の獲得

＊大学の活性化、教育内容・教育環境の国際化

目次：コンソーシアム事務局活動総括（2018年度～2022年度）

１．文部科学省ＩＢ教育推進コンソーシアム運営業務

２．国際バカロレア教育の効果に関する調査研究業務

３．国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

４．情報共有プラットフォームの構築・運営業務

５．シンポジウムの開催業務

１．文部科学省ＩＢ教育推進コンソーシアム運営業務

１－１．ＩＢ普及のための関係者協議会の開催

１－２．ＩＢ教育に関する諸課題の優先事項および解決に向けた活動計画の遂行

１－３．コンソーシアム協力校・機関における活動

１．文部科学省ＩＢ教育推進コンソーシアム運営業務

１－１．ＩＢ普及のための関係者協議会の開催

ＩＢに関する諸課題を念頭に置き、１条校等でのＩＢの導入・運営への支援等、持続的な普及促進体制をコンソーシアムを通じて構築した。

＜関係者協議会の様子＞

＜各年度の主な議題＞	
２０１８年度	ー主な検討事項における論点整理ならびに５か年計画について ー各論点整理に関する議論（ワーキンググループの設置）
２０１９年度	ーＩＢ推進の諸課題における優先課題ならびに課題解決オプションの確認および検討 ー諸課題に対する優先順位付けについての検討 ーデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラム実施に関するアンケート調査についての報告
２０２０年度	ーＩＢ教育に関する諸課題の解決に向けた活動計画案 ー活動計画案に関する改善点等について
２０２１年度	ーＩＢに係る課題意識の共有（各構成員より） ーＩＢを活用した大学進学に関する調査・活動
２０２２年度	ーＩＢ教育に関する諸課題の解決に向けた活動計画に対するコンソーシアム活動報告 ーＩＢの教育効果に関する調査研究報告

１．文部科学省ＩＢ教育推進コンソーシアム運営業務

１－２．ＩＢ教育に関する諸課題の優先事項および解決に向けた活動計画の遂行

＜IB教育に関する5つの課題＞	＜具体的な活動＞ ※席上配布資料3を参照
１．学校・自治体へのＩＢ導入への必要な支援	ーヒアリング面談を含めたＩＢ啓発活動の充実 ーＩＢ導入好事例に関する集約と共有 ーシンポジウム・地域セミナー・ＩＢ導入相談会等の各種イベントの実施
２．ＩＢ教員養成における量的拡大と質的充実	ー教員養成課程を有する大学におけるＩＢ教育に対する理解の促進 ーＩＢの考え方（教科横断的なアプローチ等）に関する研修会の推進 ー国内のＩＢ公式ワークショップの開催充実
３．生徒・保護者へのＩＢ教育に関する情報提供	ー生徒・保護者向けのＩＢ教育の基礎情報の発信 ー生徒・保護者向けの ＩＢ 啓発セミナーの実施 ーＩＢを活用した国内・海外大学への進学情報
４．ＩＢ生に対する財政支援について	ーＩＢ認定校での在籍生への財政支援の状況把握ならびに既存の国内奨学金支援団体との連携の検討 ーＩＢ生の負担軽減の検討（公的な支援が困難なものを含む）
５．企業家の視点からグローバル人材の必要性	ーＩＢ修了生とグローバル人材の資質能力に関する多角的な検証・エビデンスの収集 ー活躍するＩＢ修了生のグローバルなキャリアパス事例の共有

１．文部科学省ＩＢ教育推進コンソーシアム運営業務

１－３．コンソーシアム協力校・機関における活動

国内の学校や教育機関よりコンソーシアムへの協力校・機関を集い、ＩＢ推進活動への支援やＩＢの調査研究への協力において連携を進めてきた。

＜コンソーシアム協力校・機関による連絡協議会の実施＞

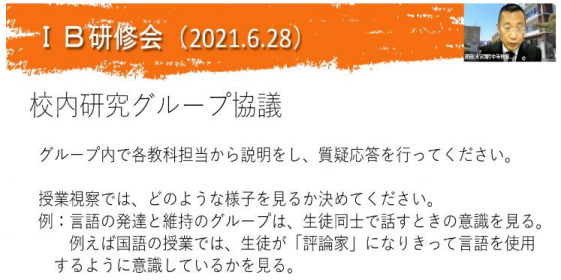
国内におけるＩＢ教育をめぐる様々な諸課題について主に学校現場の関係者間で情報共有するためにコンソーシアム協力校・機関による連絡協議会を年度ごとに開催

協力校・機関数：５４団体（内訳：学校−３５、大学−８、教育委員会−７、その他−４）　※２０２３年３月２３日時点

＜連絡協議会での各年度の主な議題＞

２０１８年度	ー「日本語ＤＰ連絡協議会からの事業継承（コンソーシアム協力校・機関の創設）」
２０１９年度	ー「コンソーシアム協力校・機関による協力体制の確立」
２０２０年度	ー「ＩＢ生のキャリア・進路指導」
２０２１年度	ー「ＩＢ校におけるカリキュラムと教員研修」
２０２２年度	ー「ＤＰ校における進路指導体制の構築」　※２０２３年３月２４日に実施予定

＜連絡協議会の様子＞



１．文部科学省ＩＢ教育推進コンソーシアム運営業務

【総括】

日本国内のIBプログラム推進のため、「コミュニティの形成」「国内の現状把握」「IB校数の増加への支援」「IBプログラムの一般への周知」に優先順位を置いて活動を続けてきた。その結果として、国内のIBプログラム導入数は一貫して増加を続けている。次のフェーズとしては、PYP・MYPの普及支援、DPの高等教育への接続、変化する社会に対応したグローバル人材育成等が重要となる。産声をあげたIB教育コミュニティ自体を持続的なものとし、さらにIB推進を通じて輩出される人材を有効に活用する施策が大切になってくると思われる。

２．国際バカロレア教育の効果に関する調査研究業務

２－１．日本における国際バカロレア教育の効果に関する研究

２－２　国際バカロレアを活用した大学入試に関する調査

２－３．ＩＢ生進路決定実態及びデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムに関する総合調査

２．国際バカロレア教育の効果に関する調査研究業務

２－１．日本における国際バカロレア教育の効果に関する研究

ＩＢ教育に係る調査研究ＩＢの教育効果について、我が国特有の状況を踏まえつつ、政策立案のためのエビデンスとなり得る客観的な定量的・定性的検証を行うため、調査研究（委託）を行った。外部有識者から構成される審査会を設け、評価項目ならびに評価基準に基づいて調査研究の進捗状況等に対する評価及び助言を行った。

＜委託調査研究概要＞　※研究結果概要はP11-12参照

課題Ⅰ：IB教育の受講によって児童生徒が培う学力の変化に係る調査研究（筑波大学）

概要：IB教育の実践を通じて児童生徒が培う学力の変化を実証的に明らかにする。特に1条校におけるIBディプロマ・プログラムの教育実践に焦点を当てて、その教育効果を、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の3つの観点から明らかにする。

課題Ⅱ：日本国籍と外国籍の児童生徒が共に学ぶ教育環境の構築へのIB教育の寄与に係る調査研究（東京学芸大学）

概要：IB生が獲得する資質・能力についてATL（Approaches To Learning）に示されるスキルをベースとしながら、IB教育と学習指導要領の相乗効果で形成されるスキルを明らかにする。更に資質・能力の3観点「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」に関してIB生と非IB生の違いについて定量的・定性的に分析する。

※調査研究の最終成果報告は第８回国際バカロレア推進シンポジウムにて発表予定（２０２３年３月２６日）

参考 ＜委託調査研究・結果概要＞（委託先：筑波大学　実施期間：2020年度～2022年度）

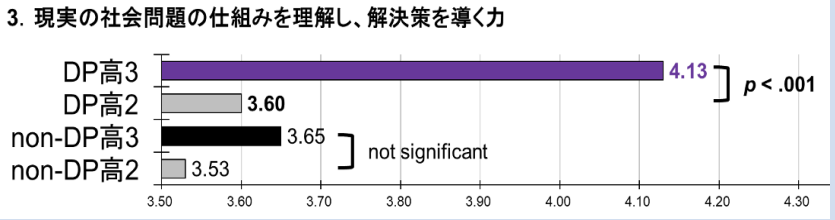
課題Ⅰ：IB教育の受講によって児童生徒が培う学力の変化に係る調査研究

仮説：①IB教育の効果を量的に測定するとIB生と非IB生には生徒の主観的な差異が生じる。
②各科目の教員集団が授業研究を繰り返し、質的にIB教育の効果を把捉していく。

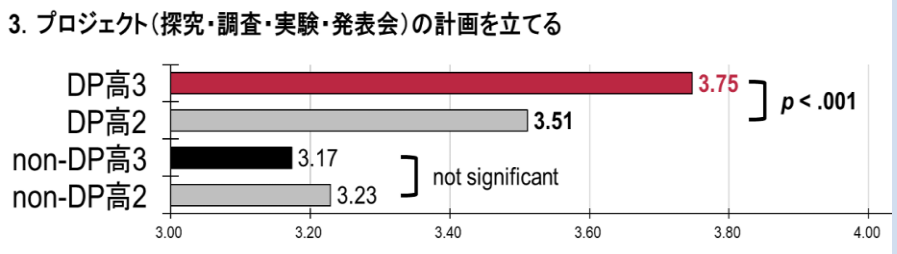
研究データ：

①能力観に関するデータ例

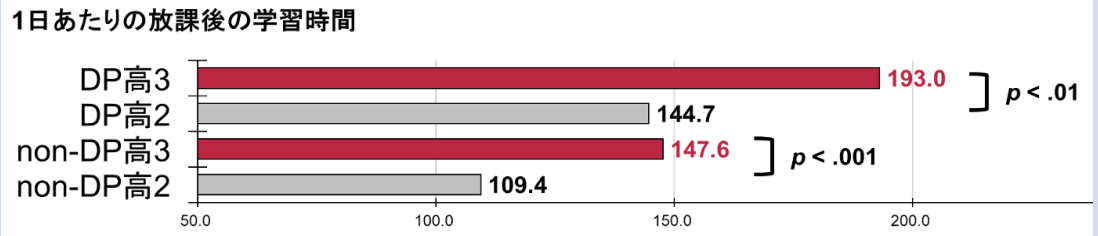
問題・課題を解決する力



②高校での学習経験に関するデータ例



③放課後の学習時間に関するデータ例



④IB教員の教育実践共有活動に関するデータ例

IB教員相互の昨年度からの参加教員と今年度から参加されたIB教員相互のネットワーク構築と学び合いが進展し、IB教員自身が教育実践を振り返り、悩みを共有し、質向上のための授業改善・授業開発が促進され、効果的な授業実践の「種」が見えてきた。

結論：・生徒の主観的「能力観」と「高校での探究型学習の経験」、また高2高3における「放課後の学習時間」において、量的な違いが確認された。

・IBの学習を経て特に伸びた（と子どもが認識している）点
①「情報を活用して深く学ぶ力」、②「他者と協働して行動する力」、
③「問題・課題を解決する力」、④「国際性」、⑤「一部の教科の知識」

・IB教育の同僚性が重要、効果発現は教員の創意工夫に依存する部分が大きい。

参考 ＜委託調査研究・結果概要＞（委託先：東京学芸大学　実施期間：2020年度～2022年度）

課題Ⅰ：日本国籍と外国籍の児童生徒が共に学ぶ教育環境の構築へのIB教育の寄与に係る調査研究

仮説：海外教育経験者と共に学ぶ学習環境は、海外教育経験の無い児童生徒に自己効力感を強くし、ATLスキルの獲得につながる。

研究データ：

アンケート調査

『ATLスキルについて、年度による自己効力感に差があるか』
（t検定　P<0.05）

		ATLスキル	P片側	P両側
IB校	高等学校	創造的思考	0.041893	0.083786
非IB校	小学校	コミュニケーション	0.003717	0.007434
		協働	0.005032	0.010105
		振り返り	0.030041	0.060081
		メディアリテラシー	0.041138	0.082277
		創造的思考	0.034179	0.068359

※IB教育そのものが自己効力感につながっていることを示唆している。

インタビュー調査調査

『帰国・外国籍児童生徒と学ぶ環境で、自分自身が身に付けられたと感じるATLスキルは』

スキル	理由
コミュニケーション（5名）	別の国の人と一緒に話ができる 英語が上手だから **他の国のことを話してくれる** 日本語を教えてあげられる
協働（3名）	考え方を知ることができる **海外の文化を知っている**
転移（1名）	上手な発音を聞ける
創造的思考（1名）	どのような国から来たのだろうとか考える
情報リテラシー（1名）	
メディアリテラシー（1名）	

※海外教育経験の無い児童生徒に、コミュニケーションや協働といったスキルの獲得に向けての自己効力感につながると考えている。

結論：海外教育経験者（帰国・外国籍児童生徒）がいる学習環境で行うIB教育（探究学習・概念学習）を小学校（PYP）から実施することは、新学習指導要領が求めるスキルにつながる自己効力感獲得と、その継続に効果的に働く。

２．国際バカロレア教育の効果に関する調査研究業務

２－２　国際バカロレアを活用した大学入試に関する調査

国内におけるＩＢ修了生に対応した入試動向の把握等の入試環境整備の一環として、ＩＢを活用した入試実施状況の調査を行った。調査結果については、各年度毎に更新の上、コンソーシアムのＨＰにて公表している。

ＩＢを活用した大学入試実施数（国内）

合計７７大学

※令和４年１２月時点

※詳細は次ページ記載

＜調査対象入試の基準＞

日本の学校（１条校）の卒業生を対象としているものを記載（帰国生や留学生に対象を限定しているものを除く）

国際バカロレア（IB）を活用した大学入学者選抜例（令和5年1月時点）　※2023年1月26日更新

【注】
・日本の学校の卒業生を対象としているものを掲載しています（いわゆる帰国生や留学生に対象を限定しているものを除く）。
・本資料は各大学へのアンケートに基づき文部科学省にて作成した資料（令和4年3月時点）の更新版として各大学からの回答を元に作成しております。必ずしも全ての情報を網羅しているわけではありません。また、実際の出願等にあたっては、各大学より最新の情報を入手してください。
・この資料での試験開始実施年度は、入学年度ではなく、試験が行われる年度として掲載しています。

(1) 公開情報：本コンソーシアムホームページに掲載される内容

	所在地	国公私	大学名	入試名称	試験導入年度	対象学部（①全学部 ②一部の学部）	学部名	対象者（①ＩＢ資格者のみを対象 ②ＩＢ資格者以外も対象）	求めるIBスコア基準 ※募集要項等で公表している場合	募集人数	備考	関連URL
1	北海道	国立	北海道大学	国際総合入試	平成29年度から実施	②一部の学部	総合教育部 ※2年次進級時に学部へ移行。移行対象は全学部（文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部、獣医学部、水産学部）	②ＩＢ資格者以外も対象		総合入試文系　5名 総合入試理系　10名	・出願時にスコアが見込み点の場合には、条件付き合格とする ※条件付き合格の場合は、指定期日までに、「IB最終試験の成績証明書」と「IB最終試験6科目の成績評価証明書」を提出する。 なお、上記の証明書の提出ができない場合や令和5年3月31日までに国際バカロレア資格を取得できない場合は、合格取り消しになる。また、合計点及び各科目の得点が出願時の見込みの得点よりも下回った場合は、合格を取り消すことがある。	https://www.hokudai.ac.jp/admission/faculty/international/
2	宮城	国立	東北大学	国際バカロレア入試	平成28年度	②一部の学部	文学部・理学部・医学部医学科・工学部・農学部／法学部・薬学部	①ＩＢ資格者のみを対象	下記募集要項の8ページ以降を参照 https://www.tnc.tohoku.ac.jp/images/yoko/r5Baccalaureate.pdf	若干名		
3	宮城	私立	東北福祉大学	総合型選抜　探究型	2018年度	①全学部	総合福祉学部、総合マネジメント学部、 教育学部、健康科学部	②ＩＢ資格者以外も対象	English HL 4以上 English SL 5以上	総合福祉学部：68名、総合マネジメント学部：20名、 教育学部：24名、健康科学部：33名		https://www.tfu.ac.jp/admissions/2023-sougou.html

参考

IBを活用した国内大学入試について

全学部実施（40大学）

【国立】
筑波大学
お茶の水女子大学
東京医科歯科大学
東京外国語大学
東京学芸大学
金沢大学
名古屋大学
京都工芸繊維大学
香川大学
九州工業大学
鹿児島大学
琉球大学
【公立】
国際教養大学
会津大学
横浜市立大学
兵庫県立大学
叡啓大学
【私立】
東北福祉大学
日本工業大学
武蔵野学院大学
工学院大学
国際基督教大学
芝浦工業大学
玉川大学
多摩美術大学
東京都市大学
東洋大学
日本獣医生命科学大学
日本体育大学
ビジネス・ブレークスルー大学
武蔵野美術大学
松本歯科大学
中京大学
京都外国語大学
同志社大学
関西学院大学
神戸女学院大学
倉敷芸術科学大学
西南学院大学
立命館アジア太平洋大学

一部学部実施（37大学）

【国立】
北海道大学
東北大学
秋田大学
群馬大学
東京藝術大学
東京大学
京都大学
大阪大学
岡山大学
広島大学
九州大学
長崎大学
【公立】
東京都立大学
都留文科大学
大阪公立大学
【私立】
国際医療福祉大学
東京国際大学
明海大学
青山学院大学
慶應義塾大学
順天堂大学
上智大学
創価大学
中央大学
東京理科大学
法政大学
武蔵野大学
明治学院大学
明治大学
立教大学
早稲田大学
愛知医科大学
立命館大学
関西医科大学
関西大学
近畿大学
広島修道大学

計77大学

【注】・日本の学校の卒業生を対象としているものを記載（帰国生や留学生に対象を限定しているものを除く）
・下線はIB資格取得者・取得予定者のみを対象とした入試を実施している大学である。
・各大学へのアンケートに基づき文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局にて作成したもので、
必ずしも全ての情報を網羅しているわけではありません。（調査：令和4年12月時点）

※文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局調べ

２．国際バカロレア教育の効果に関する調査研究業務

２－３．IB生進路決定実態及びデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムに関する総合調査

IB生の進路決定の実態及びデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラム（日本語DP）の状況についてアンケート調査を実施した。調査結果は、今後の国内におけるIB教育の普及ならびにIBを活用した大学入試の推進等において活用していく。

＜IB生進路決定実態及びデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムに関する総合調査＞
【対象】日本国内のIBディプロマ・プログラム認定校・候補校のうち、学校教育法第一条に定める学校
内容】（A）IB生進路決定実態調査 -回答対象：IB生(高校3年生)または修了生、進路指導担当教員 （B）デュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムに関するアンケート調査 -回答対象：教育課程編成の責任者

※調査概要についてはP16-17を参照
※調査結果詳細については席上配布資料4を参照

参考　IB生進路決定実態及びデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムに関する総合調査【概要】

(A)-1　IB生進路決定実態調査　[IB生(高校3年生)または修了生]

調査期間	2021年8月1日～9月30日
調査対象	日本国内のIBディプロマ・プログラム認定校・候補校のうち、学校教育法第一条に定める学校（44校）
調査方法	質問紙調査（回答方法：Webによる回答）
回答数	21校　140名
主な調査項目	・IBでの学びについて―IBを選んだ理由、IBの学びによる変化や身についた力 興味のある学問的専門分野や将来やってみたい仕事や夢 ・進路の決定について―魅力を感じる進路（国内／海外）、進路の決定要因 進路に関する情報収集方法、大学受験形態

(A)-2　IB生進路決定実態調査　[進路指導担当教員]

調査期間	2021年8月1日～9月30日
調査対象	日本国内のIBディプロマ・プログラム認定校・候補校のうち、学校教育法第一条に定める学校（44校）
調査方法	質問紙調査（回答方法：メール、Webによる回答）
回答数（率）	37校（84%）― 認定校32校、候補校（2021年8月時点）5校
主な調査項目	・進路指導の体制　・指導時に参考している情報媒体 ・大学の案内に記載を希望する項目 ・IBを活用した入試について感じること

参考　IB生進路決定実態及びデュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムに関する総合調査【概要】

(B) デュアルランゲージ・ディプロマ・プログラムに関するアンケート調査

調査期間	2021年8月1日～9月30日
調査対象	日本国内のIBディプロマ・プログラム認定校・候補校のうち、学校教育法第一条に定める学校（44校）
調査方法	質問紙調査（回答方法：メール、Webによる回答）
回答数（率）	43校（98% ）認定校35校、候補校（2021年8月時点）8校
主な調査項目	・IBDP生数ならびにIB科目履修生数の推移 ・IBDP科目の指導言語と科目履修人数 ・修了生の進学先 【英語等DP校のみ対象】 ・英語等でIBDPを実施している理由 ・科目実施にあたっての課題、対応策 【日本語DP校のみ対象】 ・日本語DPを実施している理由 ・グループ3からグループ6の科目のうち、英語等で実施している科目名と、その科目を選んだ理由 ・上記実施にあたっての課題、対応策

２．国際バカロレア教育の効果に関する調査研究業

【総括】

ＩＢ教育の効果に関する研究からは、ＩＢ校では多様性を尊重し、それ自体を学習教材として捉える傾向があり、また根拠や理由、情報の信頼性を重要視させ、探究したい課題を自ら立てるプロジェクト型の教育がより多く行われている傾向があり、生徒も自身の能力向上を感じていた。大学入試に関連した状況調査では、大学側の認知は高くないものの、受け入れた大学においてはＩＢ校を卒業した学生は総じて評価が高く、特に非認知能力（情報を活用、他者と協働、課題発見と解決、国籍を含めた多様性の包含）が高く評価された。また、国内のＩＢ校への調査からも多様性の尊重、批判的思考、探求学習スキルの向上をベースとした学力の発達が確認された。今後は以上の知見をふまえ、ＩＢ教育の教育効果の研究をさらに解像度を上げ、定量的に調査・可視化していくことが肝要と思われる。

３．国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－１．国際バカロレアの認定校数の把握

３－２．学校・自治体へのヒアリング面談の実施（ＩＢ教育導入サポーター活動）

３－３．ＩＢ好事例に関する集約と共有

３－４．国際バカロレア機構との連携

３－５．ＩＢ教育啓発活動の実施

３－６．学習指導要領とＩＢカリキュラムの読み替えに係る作業部会の実施

３－７．グローバル人材育成関連の施策との連携

3. 国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－１． 国際バカロレアの認定校数の把握

国内の日本の認定校等数
１９１校
（令和４年１２月３１日時点）

※認定校・候補校の内訳

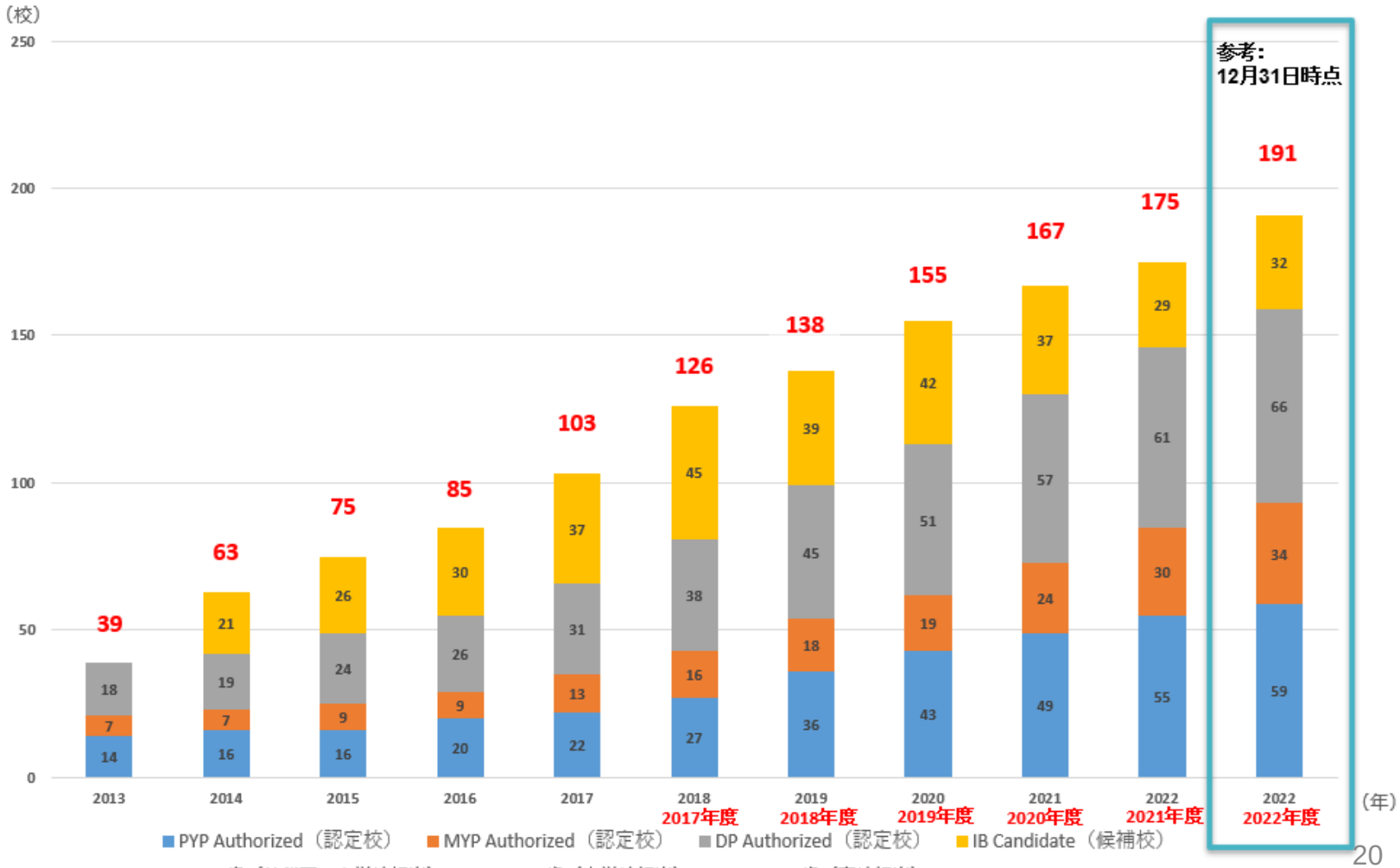
PYP：認定校５９校　候補校２１校

MYP：認定校３４校　候補校８校

DP ：認定校６６校　候補校３校

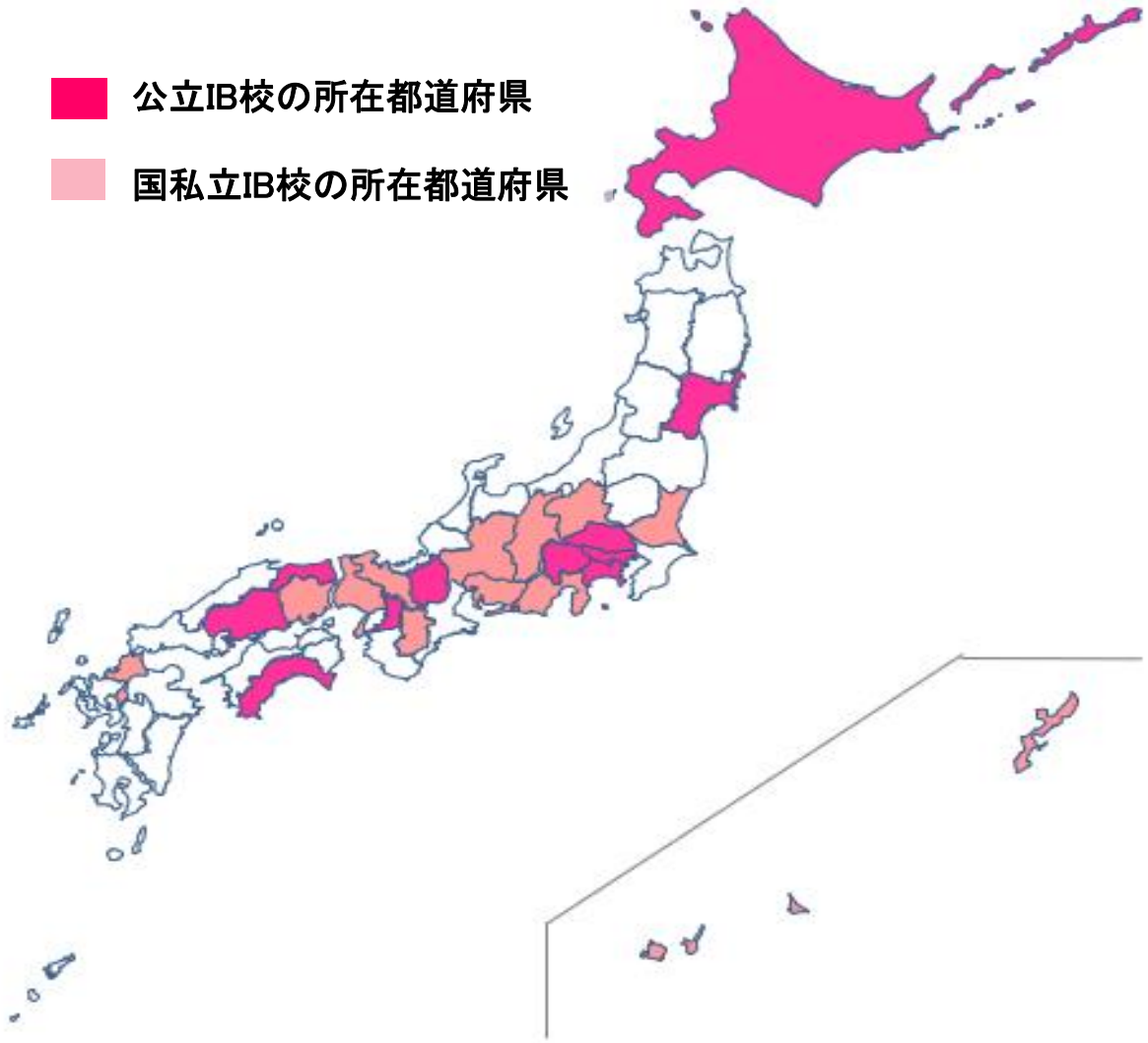
※１校で複数のプログラムを実施している学校があるため、プログラムごとの学校数の合計は全体の学校数と一致しないので、延べ数を表記している。

国際バカロレア認定校等数推移



3. 国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－１． 国際バカロレアの認定校数の把握



日本国内のIB校内訳一覧（令和4年12月31日時点）

		公立	国立	私立	非1条校	合計
認定校	PYP	1	1	14	43	59
	MYP	5	2	11	16	34
	DP	11 (10)	2 (2)	30 (19)	23 (2)	66 (33)
	小計	17	5	55	82	159
候補校	PYP	0	0	6	15	21
	MYP	0	1	4	3	8
	DP	0	0	3(3)	0	3
	小計	0	1	13	18	32
全体合計		17	6	68	100	191

※括弧内は日本語DP校数を示す。

＜導入傾向に関する分析＞

・1条校のIB認定校・候補校数が非1条校と比べて半数まで近づいている。

・北陸、東北、九州は他と比べてIB未導入の地域が多い。

・都道府県（9）、政令指定都市（2）、市町村区（1）の自治体においてIB導入に取り組むようになった。

・国内のDP校の約半数が日本語DPを実施している。

３．国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－２．学校・自治体へのヒアリング面談の実施（ＩＢ教育導入サポーター活動）

【ヒアリング面談概要】

各年度ごとに学校・自治体（教育委員会等）へのヒアリング面談を行った。また、文部科学省大臣官房国際課職員、IB機構職員ならびにIB教育導入サポーターにも同席いただくことで、IB導入に関する具体的な質問にも対応できるようなサポート環境を整えた。具体的には、ヒアリングに関心ある学校・自治体よりヒアリング申込の受付（HP）を常時行った。また、下記の学校・自治体を対象にヒアリング面談の希望調査票の送付（紙面）も行った。

＜アプローチ先＞

学校：SGH・SSH・WWLの学校（2020年度～）、私立小中高等学校（2021年度～）、全国国公立大学附属学校（2021年度～）

自治体（教育委員会）：都道府県（2019年度～）、政令指定都市（2020年度～）、市町村区（2020年度～）

＜学校・自治体向けヒアリング面談の実施結果＞	
2019年度	教育委員会（5機関）
2020年度	教育委員会（7機関） 学校（18校）
2021年度	教育委員会（11機関） 学校（16校）
2022年度	教育委員会（11機関） 学校（16校）

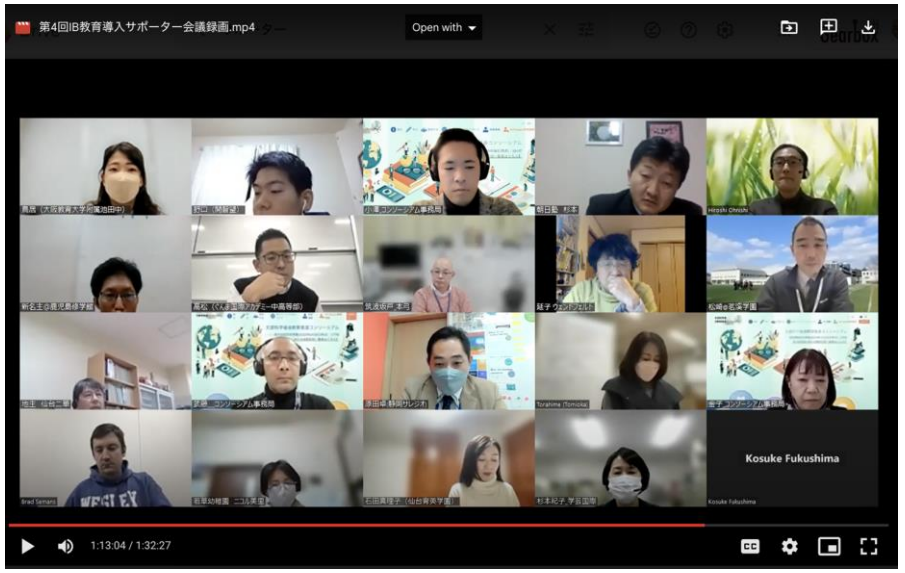
3. 国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－２． 学校・自治体へのヒアリング面談の実施（ＩＢ教育導入サポーター活動）

【IB教育導入サポーター】

IB教育の未導入地域の自治体（教育委員会）ならびに関心がある学校や候補校に対して各IB教育プログラム（PYP・MYP・DP）の積極的な推進や助言等の活動を目的としたIB教育導入サポーターを2020年度のコンソーシアム活動より導入した。導入サポーターは適宜、ヒアリング面談への同席の上、IB導入に関する助言を行った。 ※席上配布資料5を参照

＜導入サポーター会議の様子＞



＜IB教育導入サポーターによる主な助言内容＞
1. IB教育の導入事例の共有と地域でのIB教育の基本的理解の促進
2. IB教育のカリキュラム編成（告示に基づく学習指導要領とIB科目の整合性等）
3. IB教育導入のための自治体・学校における予算計画確保等に関する助言
4. その他、上記以外におけるIB教育をめぐる日本の学校が抱える諸課題への助言

3. 国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－３．　ＩＢ好事例に関する集約と共有

コンソーシアム事務局として、国内のIB認定校等における教育実践等の好事例資料を情報共有プラットフォームである「AirCampus」上において広く一般公開している。また 、IB修了生ならびにIB教員へのインタビュー記事については、ホームページの記事として連載している。

＜AirCampus収録コンテンツ例＞ ※2023年3月23日時点

- 「コンソーシアムシンポジウム・セミナーのアーカイブ動画」（30本）
- 「IB教員・修了生インタビュー・授業関連動画」（27本）
- 「IB認定校における教育資料」
- 「IB公式日本語資料」
- 「コンソーシアム通信（AirCampusニュースレター）」

＜ホームページ収録コンテンツ例＞　※2023年3月23日時点

- 「IB教育の魅力を伝えるプロモーション動画」
- 「IB修了生・IB教員インタビュー記事」 ※席上配布資料6を参照

3. 国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－４． 国際バカロレア機構との連携

国内のIB教育の充実した環境整備ならびに導入関心校への支援のために、国際バカロレア機構と効果的な連携を図った。

＜IBENメンバー（日本語対応）の育成支援＞

国内でのIBプログラムの質的向上を図るため、IBコンソーシアムの支援を介し、文部科学省とIB機構が連携して日本語対応の可能なIBENメンバー（IBEN: The International Baccalaureate Educator Networkの略称、IB公式ワークショップリーダー・認定訪問員・試験官等のネットワーク組織）の養成活動を行なった。そのうえで、国内における日本語IB公式ワークショップの開催充実を図った。

IBENメンバー研修期間（2019年度実施）：2019年7月31日～8月2日（日本人46名が参加）

参考：2022年度IB公式ワークショップ（日本語実施）

4月15日～17日／5月27日～29日／8月1日～3日／8月2日～4日／8月19日～21日／11月11日～13日

＜候補校支援申請プログラムの案内と申込対応＞

IB機構にて2022年（1月～12月）にIB候補校を目指す学校に対して支援申請プログラムが実施された。申請のとりまとめにあたっては、コンソーシアム事務局にて窓口業務の対応を行った。

支援内容：公式ワークショップ参加費免除（学校長向け／コーディネーター用のみ）ならびに候補校申請料免除

申請結果：47校 （※2022年12月31日にて受付終了）

３．国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－５．ＩＢ教育啓発活動の実施

各地域のIB関心者向けにIB教育への理解を深める地域セミナー、学校・自治体関係者向けのIB教育導入に関するセミナー、また民間機関主催の教育イベントにおいて生徒保護者向けのIBに関する講演等を実施した。 **※各セミナー・講演の実施状況についてはP36～38を参照**

2023年2月　中日本地域セミナー

＜IB地域セミナーの実施＞　2019年度3回、2020年度7回、2021年度7回、2022年度3回、計20回実施

導入を検討する学校側より、地域、生徒・保護者に対するIB教育への初歩的な理解が希求されていたことから、IB教育への全般的な理解促進を狙った全国での地域セミナーを開催した。

＜テーマ例＞「国際バカロレアの教育実践事例について」「国際バカロレア教育の魅力について語るトークセッション」
「AirCampusファシリテーターならびにIB教育導入サポーターとの情報共有会」

＜IB導入セミナーの実施＞　2019年度1回、2021年度3回、2022年度3回、計7回実施

学校・自治体関係者にむけては具体的な内容が求められていたことから、IB教育導入の意義や、先進的にIBを導入した学校の教育事例、そして認定のプロセス等について理解を深められる様に、以下のようなセッションを含む年3回の「IB導入セミナー」を開催した。

＜テーマ例＞「国際バカロレアの推進について」「IB教育プログラムの導入事例」「IB認定プロセスについて」

＜生徒保護者向けIB教育講演の実施＞　2019年度1回、2020年度1回、2021年度1回、2022年度2回　計5回実施

生徒・保護者向けのIB啓発活動においては、民間の学校相談会・進路相談会にてIBに関する講演を行った。

＜テーマ例＞「国際バカロレアの推進について」「小中高におけるIB教育」「IB修了生を求める大学」等

３．国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－６．学習指導要領とＩＢカリキュラムの読み替えに係る作業部会の実施

コンソーシアム事務局によって設置された「学習指導要領―IBカリキュラムの読替えに係る作業部会」の調査を行い、IBDPカリキュラムと学習指導要領との対応関係の整理を行った。作業部会では、IBならびに学習指導要領の各科目において知見を有する教育関係者をメンバーとして、IBと学習指導要領のカリキュラムの対応関係の整理を行った。最終的には、作業部会での調査結果を踏まえIBDP認定校における教育課程の基準の特例の一部改正（令和3年文部科学省告示第202号）が行われた。

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム	高等学校学習指導要領（平成３０年改訂）
ランゲージＡ：ランゲージ・アンド・リタラチャー	現代の国語、言語文化
ランゲージＡ：リタラチャー	言語文化
ジオグラフィー	地理総合
ヒストリー	歴史総合
マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズ	数学Ⅰ
マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション	数学Ⅰ
フィジックス	物理基礎
ケミストリー	化学基礎
バイオロジー	生物基礎
ミュージック	音楽Ⅰ
ヴィジュアル・アーツ	美術Ⅰ
ランゲージＢ	英語コミュニケーションⅠ
セオリー・オブ・ナレッジ	総合的な探究の時間

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム	高等学校学習指導要領（平成３０年改訂）
ランゲージＡ：ランゲージ・アンド・リタラチャーSL	論理国語、文学国語、国語表現
ランゲージＡ：ランゲージ・アンド・リタラチャーHL	論理国語、文学国語、国語表現、古典探究
ランゲージＡ：リタラチャー	論理国語、文学国語、国語表現、古典探究
ジオグラフィー	地理探究
ヒストリー	日本史探究、世界史探究
エコノミクス	政治・経済
マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズSL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ、数学Ｂ
マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチズHL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ、数学Ｂ、数学Ｃ
マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーションSL	数学Ⅱ、数学Ａ、数学Ｂ
マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーションHL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ、数学Ｂ、数学Ｃ
フィジックス	物理
ケミストリー	化学
バイオロジー	生物
ミュージック	音楽Ⅱ、音楽Ⅲ
ヴィジュアル・アーツ	美術Ⅱ、美術Ⅲ
ランゲージＢ	英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ

３．国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

３－７．グローバル人材育成関連の施策との連携

国際バカロレアの認定校ならびに候補校の中には、スーパーサイエンスハイスクール、ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアムなどのグローバル人材育成施策に係る学校も見受けられる。それらの指定校より多くの教員がAirCampusファシリテーターやIB教育導入サポーターとしてコンソーシアム活動に参加しており、各種セミナーやシンポジウムにも登壇している。　※各セミナー・講演の実施状況についてはP36～38を参照

＜グローバル人材育成関連の施策と関連するIB認定校＞

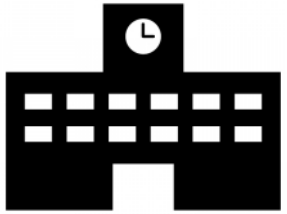
【スーパーサイエンスハイスクール指定校】

- 札幌日本大学高等学校（DP認定校）
- 市立札幌開成中等教育学校（MYP・DP認定校）
- 茗溪学園中学校高等学校（DP認定校）
- 玉川学園中学部・高等部（ MYP・DP認定校）
- 東京学芸大学附属国際中等教育学校（MYP・DP認定校）
- 滋賀県立虎姫高等学校（ DP認定校）

【ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム指定校】

- 筑波大学附属坂戸高等学校（DP認定校）
- 名古屋国際中学校高等学校（DP認定校）
- 立命館宇治高等学校 （DP認定校）

３．国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務



【総括】

学校・自治体向けのヒアリング面談については、導入サポーターなどの助言体制を整えることできめ細やかな支援を進めてきた。また、IBの好事例を蓄積し、セミナー等を通じて一般への周知活動を行い、導入関心校の増加に努めてきた。今後は導入にむけて動き始めた教育機関へのさらなるきめ細やかなサポート体制が求められることになると考えられ、例えば、既存のIB校、IB導入に関心を持つ教育機関との横の連携を促進し、さらなる学校間のネットワーク形成を醸成することが肝要と思われる。

４．情報共有プラットフォームの構築・運営業務

IBに関する情報共有は、これまではIB機構におけるホームページならびにIB候補校ならびに認定校の関係者がアクセスできる教員向けの会員制サイト（My IB）における情報へのアクセスが一般的であった。一方で、IBに関する国内の動向やそれらに関連した関心や疑問をより広く関係者が共有できる場として一般関係者向けの情報共有プラットフォームを構築することは有効である。そこで、コンソーシアム事務局として一般向けのコンソーシアムHPならびに情報共有プラットフォーム「AirCampus」の管理およびその運営を行った。

＜コンソーシアムHPの概要＞

【掲載コンテンツ】

国内のIB認定校等に関する情報／IBを活用した大学入試に関する情報／

学校・自治体向けのヒアリング面談受付／IB教育導入サポーターによる個別面談受付／

国際バカロレア教育に関する一般的な基礎情報（認定プロセス、ワークショップ、調査研究等）／

IB教育のプロモーションビデオ（コンソーシアム制作）／

国内におけるIBに関するイベント（セミナー、シンポジウム、公開授業、研究会等）／

IB関連校における教員採用情報　等

※参考：【閲覧総数】 420，427 PV（2022年4月1日～2023年3月23日）

【訪問ユーザー数】 188，473（2022年4月1日～2023年3月23日）

＜ウエブサイト画面＞

４．情報共有プラットフォームの構築・運営業務

＜AirCampusの概要＞

IBに関する情報を広く関係者間が共有できる双方向の情報共有プラットフォーム「AirCampus」の運営を通じて双方向の情報提供のための環境を整える。

【プラットホーム機能】

・日本のIB教育に関する一般的な情報を日本語で提供する。

・IB教育に関する一般的な情報、IB関連イベント等に関する情報を日本語で提供する。

・IBを知らない人からIB認定された学校のメンバーまで、幅広い方が参加できる場を提供する。

【AirCampusファシリテーター】 ※席上配布資料7を参照

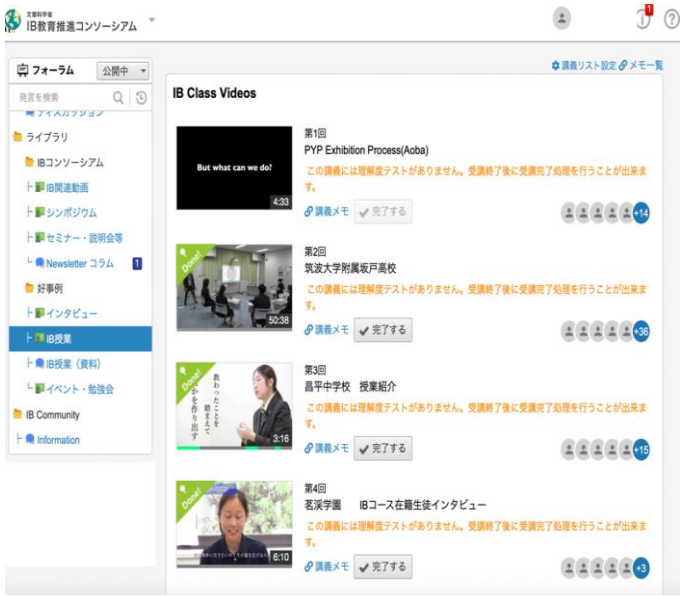
IBに知見を有する国内の教育関係者（IB校関係者、自治体関係者、大学関係者等）より AirCampusの活動を支援するファシリテーターを人選している。

【AirCampusカフェの実施】 ※2021年度5回、2022年度5回　計10回実施

AirCampus会員がIBの話題について、話し易いクローズドな環境で双方向に対話できる場(オンライン)を提供し、IB教育および特定のテーマに関する学びを深め、理解を促進するための AirCampusカフェを実施した。（2021年度～2022年度）

【AirCampus会員数】 2,711名（2023年3月20日時点）

＜AirCampusのサイト画面＞



４．情報共有プラットフォームの構築・運営業務

【総括】

一般的な認知を目的としたウエブサイトと、高度な情報共有を目的とした会員制の情報プラットフォームの構築を通じて、導入に必要な情報の整理、事例などの情報量自体は多くなった。こうした有用な情報のさらなる活用支援、学校側からの好事例が発信しやすいプラットフォームの構築、プラットフォーム自体の周知・認知度の向上などが次の課題と考えられる。

５．シンポジウムの開催業務

シンポジウムでは、国内外からゲストスピーカーを招聘したキーノートスピーチやIBの普及のための講演、教育効果や大きな成果が認められた内容の発表を中心とし、対外的にも積極的に情報発信を行った。

国際バカロレア推進シンポジウムのテーマ一覧　※各シンポジウムの申込数等はP35～37を参照	
2018年度	第1回 「日本におけるIB教育普及・促進に向けて」 第2回 「日本におけるIB教員養成の今後の発展に向けて」
2019年度	第3回 「日本国内でのIB導入好事例」
2020年度	第4回 「国際バカロレア教育におけるICT活用について」 第5回 「国際バカロレア教育における教科横断的な学び」
2021年度	第6回 「国際バカロレア教育で、学校・地域・社会が変わる」 第7回 「国際バカロレア教育における探究的な学び」
2022年度	第8回 「なぜ日本において国際バカロレア教育が必要なのか？」 ※2023年3月26日実施予定（参照・席上配布資料8）

５．シンポジウムの開催業務

【総括】

日本国内のＩＢプログラムへの一般的な認知を目的として、幅広いテーマかつ多様な層にむけてシンポジウムを開催してきた。イベント運営の面では対面での開催、コロナ禍におけるオンライン開催等、柔軟に対応して運営を行った。今後も、様々な関係者が集うシンポジウムにおいては、引き続き教育的動向を踏まえたテーマを設定し、同時に関係者間のネットワーク形成に寄与するような運営形態を模索する必要があると思われる。

コンソーシアム活動総括（概要スライド）

1. 文部科学省IB教育推進コンソーシアム運営業務

日本国内のIBプログラム推進のため、「コミュニティの形成」「国内の現状把握」「IB校数の増加への支援」「IBプログラムの一般への周知」に優先順位を置いて活動を続けてきた。その結果として、国内のIBプログラム導入数は一貫して増加を続けている。次のフェーズとしては、PYP・ MYPの普及支援、DPの高等教育への接続、変化する社会に対応したグローバル人材育成等が重要となる。産声をあげたIB教育コミュニティ自体を持続的なものとし、さらにIB推進を通じて輩出される人材を有効に活用する施策が大切になってくると思われる。

2. 国際バカロレア教育の効果に関する調査研究業

IB教育の効果に関する研究からは、IB校では多様性を尊重し、それ自体を学習教材として捉える傾向があり、また根拠や理由、情報の信頼性を重要視させ、探究したい課題を自ら立てるプロジェクト型の教育がより多く行われている傾向があり、生徒も自身の能力向上を感じていた。大学入試に関連した状況調査では、大学側の認知は高くないものの、受け入れた大学においてはIB校を卒業した学生は総じて評価が高く、特に非認知能力（情報を活用、他者と協働、課題発見と解決、国籍を含めた多様性の包含）が高く評価された。また、国内のIB校への調査からも多様性の尊重、批判的思考、探求学習スキルの向上をベースとした学力の発達が確認された。今後は以上の知見をふまえ、IB教育の教育効果の研究をさらに解像度を上げ、定量的に調査・可視化していくことが肝要と思われる。

3. 国際バカロレア導入を検討する学校等への支援業務

学校・自治体向けのヒアリング面談については、導入サポーターなどの助言体制を整えることできめ細やかな支援を進めてきた。また、IBの好事例を蓄積し、セミナー等を通じて一般への周知活動を行い、導入関心校の増加に努めてきた。今後は導入にむけて動き始めた教育機関へのさらなるきめ細やかなサポート体制が求められることになると考えられ、例えば、既存のIB校、IB導入に関心を持つ教育機関との横の連携を促進し、さらなる学校間のネットワーク形成を醸成することが肝要と思われる。

4. 情報共有プラットフォームの構築・運営業務

一般的な認知を目的としたウエブサイトと、高度な情報共有を目的とした会員制の情報プラットフォームの構築を通じて、導入に必要な情報の整理、事例などの情報量自体は多くなった。こうした有用な情報のさらなる活用支援、学校側からの好事例が発信しやすいプラットフォームの構築、プラットフォーム自体の周知・認知度の向上などが次の課題と考えらる。

5. シンポジウムの開催業務

日本国内のIBプログラムへの一般的な認知を目的として、幅広いテーマかつ多様な層にむけてシンポジウムを開催してきた。イベント運営の面では対面での開催、コロナ禍におけるオンライン開催等、柔軟に対応して運営を行った。今後も、様々な関係者が集うシンポジウムにおいては、引き続き教育的動向を踏まえたテーマを設定し、同時に関係者間のネットワーク形成に寄与するような運営形態を模索する必要があると思われる。

参考：2018年度～2022年度までのコンソーシアム事務局活動ハイライト(１)

2018年度

- 「文部科学省　ＩＢ 教育推進コンソーシアム関係者協議会」の立ち上げ
- 情報共有プラットフォーム「AirCampus」の運用開始
- ＩＢ関心校・候補校・認定校・自治体・ＩＢＥＣ大学機関へのヒアリング面談開始
- 第１回 国際バカロレア推進シンポジウム 「日本におけるＩＢ教育普及・促進に向けて」　2018年10月14日 申込数：501名
- 第２回 国際バカロレア推進シンポジウム 「日本におけるＩＢ教員養成の今後の発展に向けて」　2019年3月16日 申込数：130名

2019年度

- 学校・自治体向けＩＢ導入相談会　2020年1月31日 申込数：19機関
- ＩＢ地域啓発セミナー実施（奈良県 2019年11月23日 申込数：36名／鳥取県2019年11月25日 申込数：90名／鹿児島県 2019年12月21日 申込数：76名）
- 生徒保護者向けＩＢ講演・個別相談会の実施（愛知県2019年7月26日／東京2019年7月30日　＊主催：海外子女教育振興財団「学校説明会・相談会」）
- 学習指導要領（旧）とＤＰカリキュラムの読み替えに係る作業部会の実施
- コンソーシアム協力校・機関による連絡協議会の実施　2019年9月22日
- 第３回 国際バカロレア推進シンポジウム 「日本国内でのＩＢ導入好事例」　2019年9月22日 申込数：220名

参考：2018年度～2022年度までのコンソーシアム事務局活動ハイライト(２)

2020年度

- ＩＢ教育導入サポーター制度の運用開始
- ＩＢ地域啓発セミナー実施（滋賀県 2020年9月27日 申込数：68名／甲信越地方 2020年12月20日 申込数 79名／北陸地方 2020年12月27日 申込数：49名／四国地方 2021年1月10日 申込数：112名／北関東地方 2021年1月24日 申込数：98名／九州地方 2021年2月11日 申込数：78名／中国地方 2021年2月28日 申込数：75名　＊学校・自治体向けＩＢ導入相談会もセミナーと同時開催）
- 生徒保護者向けＩＢ講演・個別相談会の実施（2020年8月18日　＊主催：海外子女教育振興財団「学校説明会・相談会（オンライン）」）
- 学習指導要領（新）とＤＰカリキュラムの読み替えに係る作業部会の実施
- 第４回 国際バカロレア推進シンポジウム 「国際バカロレア教育におけるICT活用について」　2020年10月3日 申込数：1100名
- 第５回 国際バカロレア推進シンポジウム 「国際バカロレア教育における教科横断的な学び」　2021年3月20日・21日 申込数：1027名

2021年度

- ＩＢ地域啓発セミナー実施（北関東地方 2021年9月18日 申込数：135名／東北地方 2021年9月26日 申込数：43名／北陸地方 2021年10月23日 申込数：23名／中国地方 2021年11月13日 申込数：35名／甲信越地方 2021年12月11日 申込数：29名／九州地方 2022年1月10日 申込数：60名／東海地方 2022年2月12日 申込数：261名）
- 学校・自治体向けＩＢ導入セミナー（第１回 2021年6月30日 申込数：79名／第２回 2021年9月1日 申込数：69名／第３回 2021年12月8日 申込数：90名）
- AirCampusカフェの実施（「ＩＢ校におけるトラブルシューティングの実際（ＭＹＰ校・ＤＰ校の事例共有）」2021年7月21日 申込数：30名／「今さら聞けないＰＹＰの話」 2021年10月15日 申込数：21名／「ＩＢ教員養成とキャリアデベロップメント」 2021年11月14日 申込数：30名／「高大接続にIB入試を生かしたい！けどわからない！—IBのイロハのイから語り始めよう」2022年3月4日 申込数：15名／「学校現場が求めるIB教員について」2022年3月9日 申込数：22名／
- 生徒保護者向けＩＢ講演・個別相談会の実施（2021年7月26日～8月2日　＊主催：海外子女教育振興財団「学校説明会・相談会（オンライン）」）
- 第６回国際バカロレア推進シンポジウム「国際バカロレア教育で、学校・地域・社会が変わる」2021年8月29日・30日 申込数：1113名
- 第７回国際バカロレア推進シンポジウム「国際バカロレア教育における探究的な学び」2022年月2月20日 申込数： 1263名

参考：2018年度～2022年度までのコンソーシアム事務局活動ハイライト(３)

2022年度

- ＩＢ地域セミナー（西日本地区　2022年11月20日 申込数：100名／東日本地区　2022年12月17日 申込数：178名／
  中日本地区　2023年2月23日 申込数：105名）
- 学校・自治体向けＩＢ導入セミナー（ＰＹＰセミナー 2022年6月1日 申込数：75名／ＭＹＰセミナー 2022年6月8日 申込数：70名／
  ＤＰセミナー 2022年6月15日 申込数：73名）
- AirCampusカフェの実施
  「ＩＢ修了生に聞く、ＩＢの学びと職業（ＤＰ・進路入試部門 ）」2022年8月27日 申込数：59名
  「ＰＹＰの魅力解説と模擬授業（ＰＹＰ部門 ）」2022年10月29日 申込数：59名
  「ＭＹＰの実践について考える」（ＭＹＰ部門） 2022年11月4日 申込数：60名
  「ＩＢ教育の効果と展望について（ＩＢ管理職・行政部門） 」 2023年1月12日 申込数：25名
  「グローバルな教員になろう!ＩＢ教員養成大学の魅力を語り合う（ＩＢ教員養成部門） 」 2023年3月18日 申込数：31名

- 生徒保護者向けＩＢ講演の実施（2022年5月下旬 ～ 10月末　＊主催：海外子女教育振興財団「帰国生のための学校説明会（オンライン）」
  2022年9月17日 ＊主催：株式会社トモノカイ「ＩＢ認定中高８校による合同学校説明会（オンライン）」）
- ＩＢ教員向けカリキュラムに関する情報共有会 2022年6月5日　申込数：223名
- 国際バカロレア教育サマーセミナー　2022年月8月7日 申込数： 98名
- 第８回国際バカロレア推進シンポジウム「国際バカロレア教育における探究的な学び」2023年月3月26日 （予定）